

原告団 ニュース

No. 77
1979.3.14

各鉱で災害続発

三月に集中して三人も死亡

合理化が強いる犠牲

見逃せぬ保安の軽視

三池炭鉱は、先の採炭員の堤政義さん(三十三歳)の命をのみこんだ災害にひき続き、次々にひき起こしていく災害で、二人の坑内労働者の命を奪ったことは一面記事で伝えた。

これは明らかに、会社が現に「貯炭増」などによる不況を口実に、強引に進めている合理化が根本原因になっており、各職場から怒りがはやり始めている。

まず、三川鉱で採炭員の堤政義さんが災害のために命を奪われたことは本紙前号で詳報したが、本紙一面記事が伝えるようにひき続き会社は有明鉱と四山鉱で災害をひき起こし、次々に二人の坑内労働者の命を奪った。

16日有明鉱で

十六日午前十時三十分ごろ有明鉱本層のS二排気坑(坑口より四ノメートル近く)で、掘進員の森田和夫さんがレール枠で頭を強く打ち、頭蓋骨折で死亡した。

26日四山鉱で

次層採炭員の吉田信夫さんの命を奪い、同時に採炭員の秋山重吉さんに重傷を負わせた災害は、三月二十六日午後七時十八分ごろ四山鉱の上層三十五号添添東片松で起きた。炭壁崩落によりスピールプレートの間に埋まったものと推定されており、頭蓋骨折および骨折、肋骨骨折が吉田さんの致命傷となったものらしく、三月に集めて以上の三つの災害が重なったこと自体、原因が余りな合理化によるものであることを物語っている。

災害の原因は合理化

施策を全面的に改めよ

重大災害を続発させる原因は、次のようなことが考えられる。第一に、保安無視の合理化の押しつけがましいこと、保安監視が一般化する傾向がきわ立ってきた。当然なことに、保安監視が有明三鉱)の石炭の生産を、従来約年産五百二十万トン計画を五百二十万トンに減らさなければならぬ(貯炭増大や輸入炭との価格差を口実)として、所定時間外労働の規制、資材の節約、新規採用の中止、賃金の切り下げ(請負給や標準作業量、目安単価、合建など賃金支払い制度のなす改訂前後、明らかに「生産縮小」も悪、福祉の切り下げを強行して「貯炭増大による不況」も、ただ

会社は三池炭鉱(四山・三川・有明三鉱)の石炭の生産を、従来約年産五百二十万トン計画を五百二十万トンに減らさなければならぬ(貯炭増大や輸入炭との価格差を口実)として、所定時間外労働の規制、資材の節約、新規採用の中止、賃金の切り下げ(請負給や標準作業量、目安単価、合建など賃金支払い制度のなす改訂前後、明らかに「生産縮小」も悪、福祉の切り下げを強行して「貯炭増大による不況」も、ただ

労働者にだけ一方的に犠牲を強いられたものらしく、三月に集めて以上の三つの災害が重なったこと自体、原因が余りな合理化によるものであることを物語っている。

ほかにもあるが、災害続発の原因の最も多いのは、合理化の押しつけがましいこと、保安監視が一般化する傾向がきわ立ってきた。当然なことに、保安監視が有明三鉱)の石炭の生産を、従来約年産五百二十万トン計画を五百二十万トンに減らさなければならぬ(貯炭増大や輸入炭との価格差を口実)として、所定時間外労働の規制、資材の節約、新規採用の中止、賃金の切り下げ(請負給や標準作業量、目安単価、合建など賃金支払い制度のなす改訂前後、明らかに「生産縮小」も悪、福祉の切り下げを強行して「貯炭増大による不況」も、ただ

仲間と

三川指導部 平田光男

また「飛車くれ」にあわてて聞かされた。王より飛車を大事がり、また「アンタの負け」。

また「飛車くれ」にあわてて聞かされた。王より飛車を大事がり、また「アンタの負け」。

昼休み相次ぐ熱戦

三川指導部 梶島敬三

ここは、三川鉱坑外の製錬場。組合員と組長の関係が緊張している。昨年の十二月より、将棋好きの同志が集まり、定期的に昼休みの熱戦に次ぐ熱戦。三十分の持ち時間から。

強行配転に抗議

全一「組合無視許さぬ」

三池炭鉱はこの二日、会社が三池炭鉱所で行った「労働者の配転を補充する」というのであり、強行に反対し、抗議するために全一(全三池)ストライキをうった。

このほど会社は、前職の松島邦子さんの機関庫への配転を強行した。

松島さんはこれまで再三配転を拒否し、現在の職場にやりと落ちることができたのだから、後に備員をもってくるべきなら、備員の人を機関庫へもって行くこと

それが普通であり、組合としても認めることはできなかった。それを三月二十六日には早やと備員を配転、松島さんに「早く出ていけ」といわんばかりのやり方をしていた。

今港務所の職場から、「会社はもっと労働者の声を聞け」「人事権をふりまわす横暴は許さぬ」との怒りの声があがっている。

あれから二十年近く、その風習の中で、違った仲間が次第に出来てきた。それがたとえ新労働者でも、社外工であっても、同じ働く者の言葉で話し合える同じ炭掘る仲間だ。

資本はかつて政府と組んで、俺たち炭鉱労働者の分裂を策動した。それが成功するや否や、次は炭鉱のナダレ閉山だった。だが今、たとえ口先だけのことに過ぎぬだろうが、彼らは地下資源の見直しを口にする。それは俺達こそが口にする言葉だ。俺たち労働者こそそのために手を握り、今闘いをすすめる。七九春闘を統一地方選挙を、働く者の命と権利を守る闘いを平和な家庭を守る闘いを。

また「飛車くれ」にあわてて聞かされた。王より飛車を大事がり、また「アンタの負け」。

また「飛車くれ」にあわてて聞かされた。王より飛車を大事がり、また「アンタの負け」。

また「飛車くれ」にあわてて聞かされた。王より飛車を大事がり、また「アンタの負け」。

また「飛車くれ」にあわてて聞かされた。王より飛車を大事がり、また「アンタの負け」。

また「飛車くれ」にあわてて聞かされた。王より飛車を大事がり、また「アンタの負け」。

また「飛車くれ」にあわてて聞かされた。王より飛車を大事がり、また「アンタの負け」。

また「飛車くれ」にあわてて聞かされた。王より飛車を大事がり、また「アンタの負け」。

また「飛車くれ」にあわてて聞かされた。王より飛車を大事がり、また「アンタの負け」。

堤政義さん

悲しみと怒り

三池炭鉱にある堤政義さんの肖像。彼の死は、労働者の犠牲の象徴として、多くの人々の心を打撃した。彼の死は、労働者の犠牲の象徴として、多くの人々の心を打撃した。

生産制限

合理化

三池炭鉱は、先の採炭員の堤政義さん(三十三歳)の命をのみこんだ災害にひき続き、次々にひき起こしていく災害で、二人の坑内労働者の命を奪ったことは一面記事で伝えた。

強行で犠牲

合理化

三池炭鉱は、先の採炭員の堤政義さん(三十三歳)の命をのみこんだ災害にひき続き、次々にひき起こしていく災害で、二人の坑内労働者の命を奪ったことは一面記事で伝えた。

重大災害をひき起こし続ける会社に、当然なことだろうが、たまりかねた大災害裁判原告団は、ニュースを発行してさつそく抗議、またその責任を追及した。